

# セイスポ

星槎スポーツ新聞

第22号 ★ 2018年5月12日(土)

SEISA

星槎グループ セイスポ編集部発行  
神奈川県 中郡大磯町国府本郷 1805-2



## オリンピック・デイ・セレブレーション in ブータン

オリンピックの開催は、人々に大きな夢を与える最大の祭典であり、同時に、オリンピックの基本精神と理想を多くの人々に広く理解してもらおうとするオリンピックムーブメントである。

第二次世界大戦後の1948年国際オリンピック委員会(IOC)は第42次総会において、1894年6月23日のIOC創設を記念し、同日をオリンピックデーとすることを決めた。その後、IOCは各国のオリンピック委員会(NOC)に、オリンピックムーブメントの一環としてオリンピックデー記念行事を実施するよう呼びかけた。

日本では、参加が認められなかった第14回オリンピック競技大会(1948年ロンドン大会)に合わせ、開会式の7月29日に明治神宮外苑競技場でオリンピックデーを記念する行事を開催した。

「スポーツを通じて相互理解と友好の精神を養い、平和でより良い世界の建設に貢献する」というオリンピックイズムの普及と、更なる理解を得るための活動がオリンピックムーブメントである。世界各国のNOCは、そのために様々な活動を行っている。また、オリンピックムーブメントは、選手やオリンピック関係者だけでなく、スポーツを愛する誰もが楽しみながら参加できるものである。日本ではIOCが、誰もがオリンピックイズムに触れることができるよう、オリンピックコンサートを毎年行っている。

ブータン王国では、毎年4月一週目の土曜日にブータンオリンピック委員会(BOC)主催、そして地方自治体協力のもとオリンピックデーセレブレーション(ODC)を国内各県で実施している。本年は4月7日(土)、首都ティンプー市から車で2時間に位置するPunaka(プナカ)県で開催された。

世界にも財団の宮澤保夫理事長他、アジア・オリンピック評議会(Olympic Council of Asia, OCA)、インドネシア・アジア競技大会組織委員会(Indonesia Asian Games 2018 Organizing Committee, NASGO)がODCに招待された。

本イベントの開催目的は、ブータン全土でスポーツの楽しさを学んでもらいたい。多くのスポーツ競技種目を経験し、国全体でオリンピックやスポーツに対する興味をより深く持ってもらいたい。子どもたちの健康増進を推進させたい。これがBOC会長ジゲル・ウゲン・ワンチュク殿下の考えである。毎年同じ競技でなく異なるスポーツが体験できる仕組みもされている。今年にはサッカー、ボクシング、テコンドー、クリケット、バドミントン、アーチェリー、クフル(伝統アーツ)、ウエイトリフティング、陸上、射撃の10種のスポーツ体験ができるよう組まれていた。ODCにはプナカ県内から1000人以上の小学生が参加した。

また、今年8月18日より2週間、インドネシアの首都ジャカルタで行われる2018年第18回アジア競技大会の海外広報行事「ファンラン(Fan Run)」も同時に開催された。中学生500名は、プナカから隣県のカサまで5キロを全員が走り抜いた。子どもたちは、走る楽しさを学び、本イベントとアジア競技大会の開催を祝った。毎年異なるマルチスポーツイベントを開催するインドネシアは、スポーツに若者を関与させるBOCのビジョンに沿ったものである。このイベントでは、リオオリンピック出場経験のあるオリンピックアンバサダー、アスリート、スポーツを体験する子どもたちが一緒に参加した。また、プナカ県の小学生の保護者は、子どもがスポーツをするのを今回のODCで初めて見たと語っており、スポーツの多くは理解していないが、見るのは楽しい」と話していた。

から片付けは、参加した子どもたちと地元学校の先生、そしてBOCスタッフ、BOC傘下の競技連盟所属のコーチ、アスリートが総出で行った。前夜、雷を伴う豪雨だったため、グラウンドコンディションはODCができる状態ではなかった。その補修は、大人と子どもが皆で協力し、開始時間に間に合わせた。誰が声掛けするのでもなく自然とやる姿を見た宮澤会長も、皆が一生懸命何とかしようとする姿を見て感心していた。イベント開催中、BOCジゲル会長、ソナム事務局長、イベント担当のKPP調査官他、BOCスタッフ職員全員が終始グラウンドに出て一緒に活動している姿に宮澤会長は「これだよ、これが大切。だから盛り上がる。全部の競技に全員が参加できる仕組みが良い。星槎オリンピックでもこういうのをやった方が良い。あと陸上大会。アイデアがいっぱい詰まっている」と話した。

標高1200メートルの自然の中、ODCに参加した大人も子どももイベントを見守っていた人たちも、全ての人に笑顔の連鎖が広がっていた。

平成30年4月7、8日にイタリアで開催されたフェンシングジュニア・カデ世界選手権大会において、星槎川口キャンパス2年生の上野優佳が「ジュニアU20」「カデ(U17)」の両カテゴリーで見事2冠を達成した。日本人初の快挙を成し遂げた、上野優佳に直接インタビューを行った。

星槎川口キャンパス上野優佳ヘインタビュー  
『どんな小さな大会でも全て優勝します!』  
フェンシングの魅力は?  
3つの種目(フルール、エペ、サーブル)があるので、それぞれの楽しさがあります。特にフルールは攻撃する権利を奪い合う緊迫した戦いが面白いです。

優勝した感想は?  
優勝は狙っていませんが、2冠できるとは思っていなかったのが嬉しかったです。ですが、団体戦では優勝を逃してしまったのでそれが悔しかったです。

今後の目標は?  
2020年の東京オリンピックを目指しながら、ジュニア大会日本1位、世界大会2連覇、どんな小さな大会でも全て優勝すること、シニアの世界ランキングをベスト16まで上げる予定です。

『世界チャンピオン』という素晴らしい成績を淡々と語る上野優佳の語り口からこれまでの練習や実績に裏打ちされた自信が垣間見えた。東京オリンピックに最も近い選手でありながらも、趣味はYouTube動画を観たり、音楽を聴く等、高校生らしいさが満ち溢れていた。(星槎川口キャンパス 教諭 福島ほのか)



競技に参加する宮澤会長



上野優佳

川口キャンパス練習場にて

# 未来に向けて スポーツを超え

4月4日から10日にかけて1週間、星槎グループ創設者である宮澤保夫会長はプータンを訪問し、来日前のツェリン・トプゲイ首相と面会をした。冒頭、トプゲイ首相からは、宮澤会長にプータンオリンピック委員会に向けての支援に対し感謝が述べられた。

宮澤会長は、帰国後、トプゲイ首相の来日歓迎レセプション、安倍首相主催晩餐会にも招待を受けた。そして首相が帰

国する日に再度大磯にて面会し、プータン王国へ本年度中に医師と看護師からなる医療チームの派遣、及び救急車2台の寄贈を行う考えがあると提唱した。

プータンは、伝統医学も、内科や外科の西洋医学による診療科と同様に確立されている。医療サービスは、国民に無料提供されている。首都ティンプーにある病院が国内医療機関の頂点となり、全下位医療機関からの紹介患者を受け入れる。病院まで容易に受診できない遠隔地からの遠隔医療相談も受けている。

また、国土を3つの地域に分け、それぞれの地域にレファラル(搬送先)病院が指定されてもいる。地域レファラル医療機関の下、20ある各県には医師を数名ずつ配置、県病院が原則的に少なくとも1つ、国内で計約30の施設を設置している。そして、医師と看護師、E-health Assistantが配置された「グレード1基礎保健所」は地域医療の最前線を担う。

各県内それぞれ数ヶ所にHealth Assistantが配置されている「グレード2基礎保健所」が合計約200設置され、簡単な診療や出産、小児の定期予防接種、各種保健指導などを含むプライマリケアを提供している。更に基礎保健所の下、複数のアウトリーチクリニックと呼ばれる出張診療所も設けられている。

スポーツはきつかけである。スポーツを通じた健康教育の拡充、スポーツ振興とスポーツ文化の充足が医療環境改善にも繋がると考える。

健康をしっかりと受診できる環境が何処にもあることで大病のリスクを早く見つけられるようにする。未然に防げる環境作りが大切である。

次に、集落や親族での連携を強固にし、お互いの健康に留意しあえること。健康情報の共有を医療施設とは別に地域共同体に根差した小さなレベル、集落や親族の中で正確に行うことができれば、体調を崩した時の対応も早くなる。つまりは、手持ちの医薬品とある程度の健康教育による医学的知識により、医療施設を頼らずとも対応できると考える。



トプゲイ首相(左)と宮澤会長(右)

星槎グループと世界どこも財団は、さらに未来を見据えてプータンとの関わりを拡げていく。

## —シンクロナイズド高飛込— 目指すは、東京 オリンピック!



村上和基

星槎大学学生として、中学校高等学校保健体育の教員免許を目指しながら、三重県のスポート指導員、兵庫県を拠点に高飛込選手

として活動を行っている村上和基(JSS白子ノ星槎大学)が、去る3月17日に行われたFINAダイビングワールドシリーズ・富士大会、ミックスシンクロで銅メダルを獲得し、2年後の東京オリンピックに向けて大きな足がかりをつかんだ。

FINAダイビングワールドシリーズは、17年ぶりに日本で開催された世界規模の大会で、緊張の中、演技した村上選手は

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

今年2月に行われた飛込国際大会派遣選手選考会で、代表入りが有力となった村上選手は、今年7月に開催される世界水泳、2月に開催されるアジア大会でのメダル獲得に向け、既に気持ち新たに日々練習に取り組んでいる。

## 第37回 全国高等学校 ライフル射撃 競技選抜大会

平成29年度 第37回 全国高等学校ライフル射撃競技選抜大会が、3月25日(日)から28日(水)までの4日間、徳島県の徳島市ライフル射撃場で開催された。

ライフル射撃競技10mエア・ライフル立射40発競技女子の部で、星槎国際沖縄の喜納夕莉が出場し、本射で総得点408.2点(23名中7位)、ファイナルでは8

名中6位の成績を残し、見事入賞を飾った。全国から選抜された選手で競い合う大会では、九州沖縄地区から3名、沖縄県からはただ一人が選抜された。

昨年7月に行われた全国大会の後、九州プロック大会やJOCジュニアオリンピックカップ、ナショナルチーム選考記録会など数々のライフル大会へ出場し、着実に経験を積んで臨んだ今大会。しかし、風邪のためあまり調子が良くなかった。また緊張から本射が始まって、なかなか自身の射撃ができなかった。7月の全国大会の時も同じような状況でファイナル進出とはならず、精神面での課題をあげていた。しかし、今回は数々の大会に出場した経験が試合半ばから活きてきた。焦らずに深呼吸を意識して呼吸を整えて仕切り直すと、後半は持ち直して練習のときのような射撃ができた。結果として合計点数は408.2とみごとにファイナル(上位8名)進出を決めた。ファイナルでは、8名中6位の成績を残し、見事入賞を果した。

試合後に今回の大会を振り返り、「結果はあまり良くなかったが、今回は点数意識(点数を狙いすぎて体が緊張し、実力が出せないこと)の操り方、セルフトーク(心の自分で自分に問いかけること)を活用するなど、自分自身の伸び代を感じた大会だった」と話す。

## 「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

「プレッシャーや応援を力にかえ、精度の高い演技ができました」と、自身の演技を振り返った。

# 星槎道都のスポーツ シーズン、開幕へ!

4月4日の入学式を境に、大学構内はたくさん学生の姿にあふれ、笑顔と希望に満ちた新学期がスタートした。各運動部は、それぞれに新入部員を迎え、新年度の北海道のスポーツシーズンの開幕に向け、その準備に余念がない。

4月29日に行われる『全日本柔道選手権』(於:日本武道館)に北海道代表として出場する高田大樹が、全国の学生の中から選ばれた8名の選手の一員として遠征して来た力ザフスタンから帰国し、上野正三北広島市長を表敬訪問した。

話題は尽きることなく盛り上がった。選手権の対戦相手は、昨年の全国警察柔道選手権優勝の強敵「得意の大外刈りで優勝目指して頑張ります」という高田に、上野市長から激励の言葉とともに、記念品が贈られた。

その翌日には、硬式野球部の春のリーグ戦が開幕する。昨秋、明治神宮野球大会大学生の部で北海道勢として初めての決勝進出を果たし、結果は惜しくも準優勝。6月に明治神宮野球場で行われる全国大会に出場するためには、優勝を逃すわけには行かない。当然、どの大学も「打倒、星槎道都!」を合言葉に、エースを先

発させるとともに、星槎道都投手陣を徹底マークしてくることが想定される。エースの福田俊は、プロ球団も注目の中、そのプレッシャーをはねのけて、自分のピッチングをすることが出来るかがポイントとなる。

そのほかにも、新体制となったサッカー部は、昨年度、北海道選抜チームに数名の学生が選ばれ、監督から高評価を得ている。ラグビー部も、佐藤監督、佐藤コーチらの指導陣が新しいチーム作りに取り組み、学生も手ごたえを感じている。



高田大樹(右) 上野市長を表敬訪問

新しい監督を迎え、GW前後から新体制がスタートする。星槎道都大学の運動部

は、今年度も、たくさん明るいスポーツニュースを全国に届けるに違いない。

## スポーツと心理学 色彩が与える影響

**オピニオン**  
星槎国際大阪副センター長  
**東田華奈**

立され、様々な研究がなされている。今回はその中でも『色彩』に焦点を当てていきたい。

スポーツをする際、どんな競技であっても必ずユニフォームや道具が必要になってくる。今は機能性だけでなく、デザイン性も追求した商品が増えてきた。実際に購入する際、我々は好きな色を選ぶであろう。私自身もそうであった。その色がパフォーマンスに少なからず影響を及ぼしているという研究結果がある。

まずは色そのものと体の関係からみていこう。私たちの体は、光や色に対して筋肉が反応するようにできている。1910年にシュタインという人が実証し、この筋肉の変化を「トーナス変化」と呼んだ。光線を当てた筋肉が緊張、弛緩と変化することを数値化したのだ。これを「ライト・トーナス値」という。通常の筋肉の状態を数値で23とすると、各色の光線に対する筋肉の変化は、赤が42、オレンジが35、黄30、緑28、青24、ベージュ23という値になる。しかもこの光線の色に対する効果は視覚からの影響を受けていないのだ。

数値が小さいほど筋肉が弛緩している「リラックスクスしている」状態で、反対に数値が高くなるほど、興奮状態を表す。色に対して好きか嫌いかなどの感情とは関係なく、無意識のうちに色に体が反応するのである。この結果を見ると、ベージュが通常の状態と気付く人も

**赤:** 活力を感じ気持ち前向きにさせる。アドレナリンを分泌し興奮を促す。熱や暖かさを感じる。食欲を増進させる。時間経過を早く感じさせる。目を引き関心を集める。

**青:** 集中力を高める。食欲をコントロールできる。興奮を抑え、気持ちを落ち着かせる。時間経過を遅く感じさせる。睡眠を促進する。

この情報があつたらうえで、どちらの色をユニフォームに選択すれば勝率が上がるのだろうか。もちろん個人のプレースタイルによっても違うだろうが、興味深い結果が出た。その結果については、次号で実験も交えながら述べていきたい。

スポーツをやっている人はもちろん、進学や就職など大きなイベントが控えている人には「色彩」にも意識を向けながら挑んでもらいたいと思う。

約2年間のリハビリ生活をjする事になった。また、創部2年目。そんな順風満帆な競技生活の2年生になる前の春合宿の練習中に前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、

約2年間のリハビリ生活をjする事になった。また、創部2年目。そんな順風満帆な競技生活の2年生になる前の春合宿の練習中に前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、



小学校5年生の体育の授業で走高跳を行い、先生に勧められて陸上競技大会に出場した事がきっかけで陸上を始めた。中学、高校と競技生活を送る中で陸上競技にどんどんのめり込んでいった。大学生の時にはまたグラウンドもない、練習環境も整っていない、そんな環境の中で競技生活を送った。

練習器具がある事が当たり前、グラウンドがある事が当たり前と思っていた当時の自分にとって「何も無い所から新たに生み出していく」そんな楽しさを大学の4年間で学ぶ事ができた。

競技生活は順風満帆ではなかった。2年生になる直前の春合宿で前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、

約2年間のリハビリ生活をjする事になった。また、創部2年目。そんな順風満帆な競技生活の2年生になる前の春合宿の練習中に前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、



## 星槎 教師 列伝

**個人種目だけど、ひとりじゃない 仲間の大切さを知った 星槎国際高等学校 バレーボール大会 優勝**

**センター長 下口直矢**

約2年間のリハビリ生活をjする事になった。また、創部2年目。そんな順風満帆な競技生活の2年生になる前の春合宿の練習中に前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、



## ニュース速報

**近代5種部創設**  
星槎国際川口キャンパスに世界レベルの部活が誕生する。フェンシング元日本代表監督の江村宏二氏を監督に迎えて始動する。五輪競技でありながら知名度は低く、高等学校では大会を実施していない。創部の目的はオリンピックや世界選手権を狙うトップアスリートを育成することだ。詳細は次号で。

**東京五輪 ミャンマーが県内で事前キャンプ**  
神奈川県とミャンマーオリンピック委員会は4月24日、県内の施設を2020年東京五輪パラリンピックの事前キャンプ地とすることで合意し、県庁で協定を締結した。箱根町の星槎グループの施設も視察していた。

約2年間のリハビリ生活をjする事になった。また、創部2年目。そんな順風満帆な競技生活の2年生になる前の春合宿の練習中に前十字靭帯損傷、半月板損傷というケガをしてしまい、



# セイスポ 夏に向けて全力をつくす

## 一星槎国際湘南 硬式野球専攻一



土屋監督からの指導

**100回生シーズンがスタート!**

いよいよ夏の甲子園100回記念大会のシーズンがスタートした。夏の前哨戦である春季県大会出場権がかかる西湘地区予選では、平塚江南高等学校と平塚工科大学高等学校と対戦して、苦しみながらも2連勝で予選1位突破することができた。内容としては、投手陣こそ2試合で1失点と安定していたが、わずかに守りのミスがありリズムが悪くなる場面があった。大きな課題は攻撃面。淡白な打撃が目立ちフライアウトが多過ぎた。安打数も多く、再三チャンスを作るが、あと一本が出ない場面が多かったのが気になった。

**第一シードを目指して!**

地区予選の反省点を活かして春季

県大会に突入した。目標は夏の大会を優位に戦えるシード権を獲得すること。特に第1シード権を奪うことができれば注目度も高く、選手のモチベーションも一気に高まる。シード権は1回戦は横浜桜陽高等学校に7-0、2回戦は湘南台高等学校に9-1と2試合連続コールド勝ちと順当に勝利を収めることができた。

この2試合は投打が噛み合い、終始優勢に試合を運ぶことができ、全体的にチームとして非常に良い状態に仕上がっている



クロスプレー

た。特にエース石橋颯太は、ここまで絶好調で4試合28イニングでわずか2失点と抜群の安定感を誇っていた。また、石綿唯人と小倉健太郎のりりー陣も無失点で抑え込んでいた。また、守備陣もショート神尾凌成を中心にリズム良くアウトを積み重ねノーエラーだった。地区予選では課題の多かった打撃陣もつながらるようになり、得点を積み重ねることができ、特に松下壮悟主将は絶好調で、ホームランを含め、打撃陣を引っ張っていた。チームの雰囲気は大変活発であり、ベンチもスタンドもグラウンドも大きな声が出ており、75名一丸となって戦えた2試合であった。

始まり。今まで通り、初回にチャンスをつかみ、松下主将のタイムリーで幸先良く先取点を奪い星槎国際湘南ペースになるはずだった。しかし、この後ヒットと四球で得た満塁のチャンスを潰してしまった。その裏、エース石橋が簡単に二死を取ったあと三連続四死球を与えてしまい、2点タイムリーを浴び逆転され、一気に市立金沢のペースになってしまった。5回にはエラーから追加点を奪われ、前半戦は1-3と劣勢のまま後半戦がはじまる。このままでは終われない星槎国際湘南は、ここで一気に気合いを入れた。6回に打線がつかれ直し、6回に打線がつかれ直して2点を奪い同点。その後も得点チャンスがありながら勝ち越しことができずにいると、7回には5回と同じようにミスからピンチを招き、痛い失点をしてしまった。結局、予想外の試合展開

になり焦ってしまい実力を発揮できずに終了した試合だった。残塁13がすべてを物語っている。

**ノーシードで夏へチャレンジ!**

3回戦敗退により、夏の選手権予選はノーシードでの苦しい戦いを強いられることになった。

100回生である3年生14名にとってはラストサマーになる。すなわち、負けたら終わりを意味する。5回ある甲子園出場のラストチャンスだ。本番まで残り約3ヶ月。今回の敗因は何だったのか?『慢心・油断・心の隙』がどこかにあったのではないかと。この現実を真摯に受け止め、すべての行動の改善を行い、夏に向けて全力で取り組んでいく。今後も皆さまの温かい応援をよろしくお願ひします。

(星槎国際湘南 野球部長 塩谷貴男)

2018年4月14日(土)、15日(日)に平成30年度第61回関東高等学校サッカー大会神奈川県二次予選の3回戦、4回戦が行われた。

星槎はU18高円宮杯神奈川県サッカーリーグ2部に所属していることから3回戦からの出場となった。2回戦を勝ち上がった星槎は、上野が相手となった。2回戦は立ち上がりから苦戦した。ビックチャンスは何度か外れてしまつた。相手の攻守が乗ってしまつた。前半先に得点を挙げたのは茅ヶ崎高等学校だった。

しかし、星槎国際湘南もすぐさま同点に迫りつくと、後半は終始ゲームを支配するもなかなか得点が奪えなかった。試合は延長戦にもつれるかと思われた後半アディショナルタイムに決勝点をあげると劇的な勝利で4回戦へと駒を進めた。

4回戦の相手は強豪、向上高等学校。星槎イレブンが立ち上がりから相手の良さを消す好守を見せた。しかし、前半7分オフサイドと思われたプレーがそのまま流れ、GKが慌てて対応すると相手にPKを献上してしまう。与えたくない先制点を許す。ここで大きく流れが変わると思われたが、星槎イレブンは戦



応援に熱をこめて

# 一星槎国際湘南男子サッカー専攻一 昨年のベスト8の戦績を上回れ



戦いを前に

で前線の選手へボールが渡ってしまつた。準備が出来ていなかった星槎国際湘南は何とかボールを奪おうとするが、ゴール中央で待ち構えていた相手FWにボールが渡ってしまい勝ち越し点を奪われてしまつた。その後、3選手を同時に投入し得点を狙いにいったが最後の最後まで星槎はゴールを奪うことができなかった。

昨年(2017年)は創部初のベスト8という戦績を収めたが、今年は悔しい結果となつてしまつた。今シーズンは、まだ始まったばかりなので、今大会の課題をしっかりと改善してチームを良い方向へ導きたい。

今年のチームは一人ひとりの責任感を強く持つことができれば昨年度の戦績を上回る力がある。その力が最大限発揮されるように日常の質を高めていってほしい。

(星槎国際湘南サッカー部 監督 永瀬裕記)

いよいよシード権をかけた戦いがスタートした。三回戦の相手は市立金沢高等学校。地区予選からここまですべて公立高校。秋季県大会二回戦でも公立高校の弥栄高等学校に惜敗を喫しており、何としても公立高校には負けたいと意気込んで試合が

いよいよシード権をかけた戦いがスタートした。三回戦の相手は市立金沢高等学校。地区予選からここまですべて公立高校。秋季県大会二回戦でも公立高校の弥栄高等学校に惜敗を喫しており、何としても公立高校には負けたいと意気込んで試合が



茅ヶ崎戦の前に気合をいれる